

岩手県宮守・附馬牛・栗橋地区ペグマタイト鉱床調査報告

奥海靖*

要 旨

- 1) 宮守・栗橋両地区のペグマタイト鉱床は、すべて遠野花崗閃緑岩中に胚胎する。
- 2) ウランとしては、栗橋地区の鶯の滝鉱床が注目される。

1. 緒 言

昭和31年11月26日から12月6日まで岩手県下宮守・附馬牛および栗橋の3地区のペグマタイト鉱床の放射能異常調査を実施したので報告する。

3地区のペグマタイト鉱床は、すべて遠野花崗閃緑岩中に胚胎する。

放射能測定には、Philips pocket battery monitor PW 4010を使用した。

本調査にあたり、とくに附馬牛地区については、東北大学教授大森啓一氏から御指導を賜わつた。記して謝意を表する。

2. 地区各論

2.1 宮守地区

本地区は上閉伊郡宮守町と遠野市綾織町にまたがり、いわゆる遠野街道にそつた地域である。

本地区は遠野花崗閃緑岩の南西部にあたり、寺沢山鉱床および滝沢附近の4鉱床(滝沢ABCおよびD鉱床)が含まれる。

2.1.1 寺沢山鉱床

釜石線、宮守駅の東北東直距6.5kmの寺沢山にある。調査当時には休山しており、珪石・長石の良質部は採掘済みで、現在は周縁部の石英と長石の混交部がみられるにすぎない。鉱床は走向N40°E、南東に50°傾斜するレンズ状をなし、全体の規模は走向方向に約40m、傾斜方向に約15m、厚さは膨縮するが約4m位と推定される。現在みられる周縁部では、厚さは1~1.5mである。

放射能強度は次の通りである。

測 定 場 所	cpm
ペグマタイト黒色鉱物の濃集した部分	69~84
ペグマタイト黒色鉱物の濃集した部分	45~63
花崗閃緑岩	35

* 仙台駐在員事務所

組成鉱物は主として石英と長石からなり、鉄雲母・白雲母・電気石等を伴なう。放射性鉱物としては褐簾石・フェルグソン石が知られている。

ウラン鉱床としては、鉱物の濃集も少なく、期待されない。

2.1.2 滝沢鉱床

遠野街道、宮守町と遠野市の境界小峠の南東約600mの滝沢橋附近に点在する鉱床群で、A,B,C,Dの4鉱床が知られている。

A鉱床：本鉱床は滝沢橋の上流約500m地点にあり、南北100m、東西30mの範囲に5~6個の旧坑(あるいは掘跡)がみられる。現在みられる鉱床は、花崗閃緑岩中の小レンズ状をなし、石英のみからなる。放射能強度は花崗閃緑岩で25cpmを示し、脈状石英質部でも異常は全く認められない。

B鉱床：滝沢橋の南方80m、街道の東側山腹にあり、南北約120m、東西約30mの範囲に旧坑(あるいは掘跡)が点在している。観察できるものは最上部のもので、厚さ40cm(最大部分)長さ5mの小レンズ状をなし、石英からなつている。放射能強度は周囲の花崗閃緑岩で29cpmを示し、石英質部でも異常なく、放射性鉱物も認められない。

C鉱床：B鉱床の南100mの地点にあり、約10m平方の範囲の掘跡があるが、ほとんど埋没して詳細は不明である。崩山中の石英と長石の混つた鉱石で50cpm(この地点のBackgroundの約2倍)を示したものがあつたにすぎない。

D鉱床：C鉱床の東方に隣接する鉱床で、南北100m、東西20mにわたり掘跡があり、その東端、道路地並からN55°E方向に40m以上掘進み、下部を採掘したものである。調査当時は一時期休山中の様様であつた。

最上郡附近にみられるものは、レンズ状石英脈で、放射能強度にもとくに変化なく、放射性鉱物もみられない。

以上記述した本地区のペグマタイト鉱床中、ウラン鉱物の認められたものは寺沢山鉱床のみであるが、この鉱床もウランの鉱床となる期待は薄い。

2.2 附馬牛地区

本地区は猿ヶ石川の上流にあたる地域で、遠野駅(釜石線)の北方直距9kmの上柳部落から猿ヶ石川に沿う上流地域と、その支流荒川に沿う地域である。位置的には遠野花崗閃緑岩の中央部に位する。

鉱床は多数の小規模なペグマタイトおよびアプライトからなり、猿ヶ石川には平均約 15 m に 1 本の割合で分布する。

これらの脈は東西方向のものが多く、南北のものは少ない。また前者の方が脈の規模は大きく、幅 1 m のものもみられる。

一般に脈の周縁部はペグマタイト質で、ピンクパーサイト・チタン鉱物を産するに対し、脈の中央はアプライト質である。したがって本地区のペグマタイトは、脈の上部が露出しているもので、その深部が露出するか、あるいは深部を採鉱しない限り、ウラン鉱物その他のペグマタイト産の諸鉱物を期待することはできない。

なお放射能強度は、母岩の 30~40 cpm に対し、脈は 50 cpm 前後である。

2.3 栗橋地区

本地区は釜石市の北西部、旧栗橋村にあたる地域で、その中心は鶴住居駅(山田線)の西北西直距 11 km の鶴住居川沿岸の沢部落(旧役場所在地)である。位置的には遠野花崗閃緑岩の東縁部にあたり、調査したペグマタイト鉱床は次の 2 つである。

鉱床名	位置
横内	沢部落の北方直距 6 km
鶯の滝	沢部落の西北西直距 4 km, 鶯の滝

2.3.1 横内鉱床

本鉱床は珪石・長石の良質部はすでに採掘済みで、現在はその周辺の石英・長石の混交部のみであるが、走向 N80°W, 南に 50° 傾斜し、東西、南北ともに約 20 m, 厚さ約 6 m のレンズ状鉱床と推定される。

放射能のとくに著しい部分もみられず、したがって放

射性鉱物の濃集は考えられない。

なおこの北東直距 600 m に旧坑らしいものがあり、坑内は崩落しているが、附近に石英・長石からなる研があり、おそらく小規模な鉱床が存在したものと推察される。

2.3.2 鶯の滝鉱床

本鉱床も珪石・長石の良質部は採掘済みで、現在みられる部分はその周辺部である。

走向 N40°E, 南東に 20° 傾斜し、東西 25 m 以上、南北 20 m 以上、厚さ 10 m 内外のレンズ状鉱床と推定される。現在みられる周辺部では、上、中、下の 3 帯に分けられ、上帯は幅約 4 m, 主として石英・長石・雲母の混り、下帯は幅約 3 m, 主として石英・長石の混りからなり、放射能強度はともに 100 cpm である。

中央は幅約 2 m で、石英・長石・雲母のほか放射性鉱物が比較的濃集し、放射能強度も平均 200~300 cpm で最高 600 cpm を示す。

放射性鉱物にはユークセン石・褐簾石がある。ウラン鉱床として、鉱物が比較的濃集し、かつ分布が帯別でできる点で、注目される。

3. 結 言

1) 遠野花崗閃緑岩中には、今回調査したペグマタイト鉱床のほかにも、多くのペグマタイト鉱床が存在するが、いずれも小規模なものであり、ウラン鉱床としても今後早急に調査を実施する必要はないと思われる。

2) 今回調査したものうち、栗橋地区の鶯の滝鉱床は、ウラン鉱物が比較的多く濃集し、その分布が帯別でできる点で注目される。

(昭和 31 年 11 月調査)